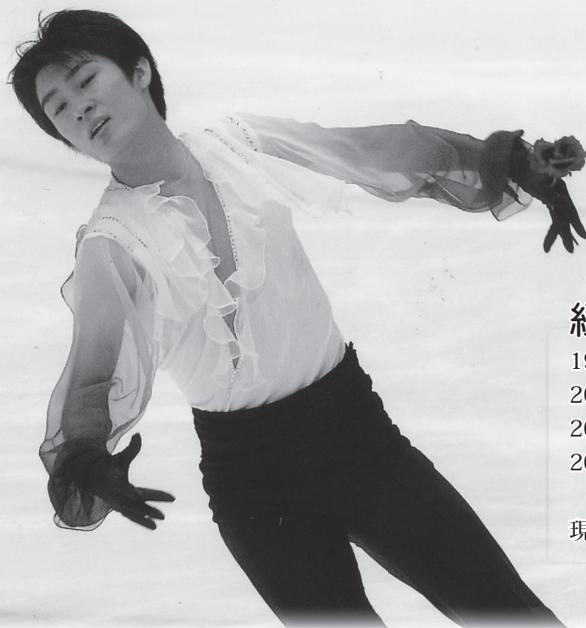


# Kanzaki Noriyuki



11月。今年もフィギュアスケートのシーズンがやってきましたね。そこで今回は、現在農学研究科修士2回生であり、選手として前年度四大陸選手権に出場された神崎範之さんにインタビューしました。(鏡)

## 経歴

1982年12月12日生まれ  
2001年 大阪府立四條畷高校卒業  
2002年 京都大学農学部食品生物科学科入学  
2006年 京都大学卒業

現在、京都大学農学研究科修士2回生

## 京大が誇る スケーター 神崎範之

### フィギュアスケートについて

——フィギュアを始めたきっかけ、中学・高校時代について

フィギュアスケートを始めたのは親の影響で、両親ともに学生の頃からフィギュアスケートをやっていたから。習い始めたのは6歳くらいの頃やけど、それより前からスケートリンクにはよく連れて行ってもらっていたかな。

中学・高校の頃はスケートばっかりの生活やったな。その中でも勉強との両立は何とかうまくやっていたんやけど、大学受験となるとそもいなくて、現役の頃は「京大なんて絶対無理！」って感じやって(笑)。それで浪人したときに、1年間はスケートから離れて勉強だけががんばってみようか、っていう話になって、何とか受かった。

中学時代にせよ高校時代にせよやっぱり親の影響って大きくて、中学の頃なんかは学校行ってスケート行ってみたいいな感じやったから、親が送り迎えしてくれていたおかげで何とか続けられてたところがあるな。

その頃は週5くらいで練習してたかな。時間的には、土・日やったら2~3時間、もっと滑れるときもあんねんけど、平日だとやっぱりリンクを借りられる時間が土・日以上に限られてくるから、大体1~2時間、ごくたまに3時間取れるときがあるくらいやった。そんなわけでリンクでの練習はあまり長時間はできんから、コーチのアドバイスのもとで効率的に練習して。技術面はそれで伸ばしていった感じやな。

はみだし  
すてーじ

ヒマだから食堂の窓の数を数えたよ。  
⇒素晴らしい! 編集部に入りませんか?

——フィギュアスケートをやっていた良かったこと・大変だったこと

今だから言えることやけど、最後のシーズンですごく好成绩を出せて、色々な国際大会とかにも出場させてもらえたりしたから、ほんとに続けていて良かったな、ってのは思う。大学入ってから、国際大会に出させてもらったり全日本で上位にいたり、ってことはあったけど、それでも前シーズンほどの伸びはなくて、で、最後に四大陸選手権出場まで行けたのは本当に良かった。

あとは……精神力がついたのは確かかな。あの氷の舞台の上で自分だけが見られるのは、なかなか体験できることじゃないから。それと全国的に顔見知りが多かったこと。フィギュア界って、特に男子はそうなんやけど、すごく狭いから、大きな大会に出れば「ああ、またあいつに会えるわ」って(笑)。今も交流はあるし、それは良かったと思う。

逆に大変だったのは、練習がぎつかったこと。土・日になると練習が朝7時からあって5時起きせなあかんってことがよくあったし。それと、俺は足があまり強くなかったせいか、よく足首をけがしてて。そういう体調管理も大変やった。

すました顔で演技してるけど、実際はしんどいからな。疲れを顔に出したら芸術点にもひびくし。男子のFS(※1)は4分半なんやけど、終盤はもう脚がパンパンに張っちゃって。ま、だからその演技の辛さってのも大変なことの一つやな。

(経・1 ワルクナイージ)  
〔「京大探偵団」書けますよ;編〕

## ——得意技・トリプルアクセル

トリプルアクセル（以下、3A）を跳べるようになったのは、高1の冬頃やったかな。ま、でも3A自体は練習し始めてからわりとすぐ跳べるようになって。ていうのは、コーチが前々から3Aにつながる跳び方を教えてくれてたからで。得意になったのはたぶんそういう理由があるんじゃないかな。小さい頃はTVで見て「あんなに跳べるか！」って思ったからな。

1つの演技にもプラス・マイナスの評価があんねんけど、前シーズンに出場した四大陸選手権では、出場選手中で3Aについては一番高い評価をもらったらしくて、周りからは「3Aは四大陸一番やな」って言われたりもした（笑）。

## ——エキシビション（※2）では「冬ソナ」を使われていましたね

4回生のときに全日本の強化合宿でエキ

シビションをやる機会があっただけ、普段あまりやらんし、どうせやるならおもしろいことをしようかと思って。そこからしばらくやる機会がなかったんやけど、エキシビションをやりたいなってことはずっと思ってたって、で、前シーズン全日本が良かったから、やろうか、ってことになった。だからあの冬ソナの演技は実は2年前からあったっていう（笑）。周りからも「ぜひやってほしい」っていう声があったから、じゃあやろうか、と。

## ——フィギュア観戦のポイント

何かな……やっぱりジャンプが見どころやと思うな。けど、新採点方式になってからジャンプだけじゃなくてスピンのステップ、1つ1つの要素がすごく高レベルになってきたんやね。どの演技にもしっかり点がつくようになったし。今までは要素でいえばジャンプ、あとは演技力が必要なくらいで、スピンやステップはただのつなぎに過

ぎなかったんやけど、それがだいぶ変わってきたから、そういうスピンやステップも見どころの1つになってると思う。もう、ほんとすごい高速のスピンをするやつとかもおもしろいし、変形も多いし。つい5年くらい前までは、ステップもサラッって流すだけやったし、スピンに至っては休憩やったしな（笑）。



▲「親の援助なしにスケートは続けられなかった」という神崎さん。終始、ご両親への感謝を口にされていた。

## これからの進路

### ——研究の道を選んだ理由

もともとスケートで食っていこうっていう気は全然なかったんやんか。まあ親がそう思ったからっていうのがあると思うねんけど、自分でも大学通って普通に就職しようと思ってたんやね。去年成績的には良くてスケートの道も、とは思ったけど、今は研究の道で、って思ってる。だから結果的には前々から考えてた通りの道を選んだかな。

受験するとき食品生物科学科を選んだのは、食べ物好きやしおもしろそうやな……っていう理由やってんけど、今は食品とスポーツに関わる研究ができたらな、って思ってる。だから、進路はスポーツと関わる道に進むと思う。食べることはスポーツをする上でも生きる上でも大事やと思うし。

去年はほんまに今年で最後にしようって思いながら続けてたんやね。大学入ってから、2年に1回あるユニバーシアードっていう大会にずっと出たいなあって思ってたって、で、1回・3回のときにいられんかったんやけど、大学院に入れば研究のほうも

忙しくなるし、って思って、4回で卒業すると同時にスケートもやめようと思っててん。だけど、1回・3回のときにユニバーシアード出られなくて、しかもその年の全日本で成績が全然ふるわなくて、ユニバーシアード出られんでも4回のときに良い演技ができたらやめようと思ってたんやけど、まあそこで散々な成績やって。で、ユニバーシアードあるし、もう1年続けてみようってやってたら、最後はすごく良い演技で終わられて。だから、もう1年続けたことはほんまに良かったって思ってる。

## 後輩たちへ

### ——神崎さんにとって、フィギュアスケートを一言で言うとは？

何やるな……この質問難しいな（笑）。んー……俺の人生の始まりに過ぎんというか、人生の1ページというか。かなり濃い内容の1ページになったけどな。結局もう人生の4分の3はスケートやってきたわけやし、これからの人生に与えていく影響は大きいと思う。やっぱりスケートとは何らかの形で関わっていくつもりやし。

### ——学業とスポーツの両立を目指す京大生に一言！

学業とスポーツ、2つだけなら何とかなる！……ってのはコーチの受け売り。俺も大学入りたての頃は飲み会も行きたいし遊びたいし、って実際そうしてたんやけど、コーチにそれじゃあかん、ってことを言われるようになって。勉強とスケートだけだったら何とかなるやろ、って言われて。俺もそれでああそうかもあって思ってやるようになった。だから、2つまでなら気合で乗り切れる！……俺、気合って言葉をよく使ってしまうねんけどな（笑）。

——ありがとうございました。

## 注釈（※）

### 1：FS

フリースケーティングのこと。フィギュアスケートの公式戦は一般に、ショートプログラム（SP）とこのFSの合計点により競われる。

### 2：エキシビション

競技ではない演技で、採点がない。神崎さんは前年度、「冬のソナタ」の主題歌に乗せて演技した。